

南極OB会北海道支部 隊員帰国報告会・帰国歓迎会（報告）

□日時等

平成23(2011)年6月2日(木) 18時～19時30分

北海道大学学術交流会館第4会議室

出席者 14名(帰国隊員含む)

□帰国隊員（出席者のみ掲載）

- ・ 第52次夏隊 小野 数也（研究観測）
- ・ 第52次夏隊 尾関 俊浩（研究観測）
- ・ 第52次夏隊 深町 康（同行者）
- ・ 第52次夏隊 酒井 誠至（同行者）



会場の様子

□帰国報告（講演順）

- 1 深町 康 52次同行者 北大低温研 公開利用研究
小野 数也 52次夏隊 北大低温研 一般研究観測



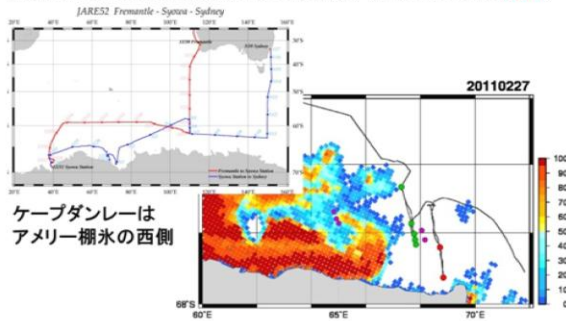
深町さん小野さん 発表の様子

「南極底層水と海氷の係留観測」

世界の海洋を巡る大循環の駆動源である南極底層水とその生成に寄与する海氷の生産について明らかにするために、新たな南極底層水の起源域として注目されているケープダンレー沖において係留観測を実施した。南極底層水をターゲットとした係留系5系を設置するとともに（54次隊で回収予定）、51次隊で設置した海氷をターゲットとした係留系2系を回収し、この海域では初めてとなる高精度の海氷の厚さのデータを取得した。

係留観測計画

1. 南極底層水の流出を捉える係留系を設置(緑丸)
2. JARE-51で設置した海水の厚さを計測する係留系を回収(赤丸)



ケープダンレーは
アメリー棚氷の西側



2 尾関 俊浩 52次夏隊 北海道教育大学 一般研究観測



尾関さん 発表の様子

「海水観測と氷海航行試験」

南極海水域の変動に関する研究は衛星データを用いて盛んに行われているが、氷厚分布を精度良く計測するには電磁誘導型氷厚センサによる連続観測と氷上ドリリング実測が有効である。JARE52ではしらせの航路と昭和基地周辺の海水上で氷厚と氷上の積雪深の観測を行った。

その結果、昨年(2010)の定着氷が今季(2011)も維持されており、全氷厚が5mを越える場所もありたいへん厚いことがわかった。



電磁誘導型氷厚センサと海水上でのドリリング作業。

昭和基地周辺の定着氷におけるそり搭載型電磁誘導センサによる海水厚観測



左: 海水上の氷板を手作業で割る。上: 1.5mの積雪を掘って海水を出しドリリングを行う。

3 酒井 誠至 5 2 次同行者 登別明日中等教育学校 教員派遣



酒井さん 発表の様子

目的：教員南極派遣授業

- ① 衛星回線による TV 会議システムを利用して「南極授業」を行い，小中高生に南極の自然や観測隊員の活動に直に触れてもらう。
- ② 教員自身が南極地域において研修を行い，今後の授業の向上に役立てる。

成果： 所属学校の外，旭山動物園（一般市民対象）や東京立川市の社会教育施設（小学生対象）で南極授業を実施しました。私自身が南極で観察し感動した，ペンギンをはじめとする生物のことや何億という年月が刻み込まれた南極大陸のことを授業で取り上げました。

南極地域の自然現象についてはもちろんのこと，そこで展開される研究活動や隊員の姿に多くのことを学ぶことができました。これらを今後の理科教育に役立てて生きたいと思えます。



□帰国歓迎会（兼懇親会）

日時：平成23年6月2日20時20分～22時15分

場所：博多ぶあいそう別邸

札幌市北区北8条西5（北大南門前）（011-738-5686）

参加者：11名（帰国隊員4名含む）